

ポレーシエ・・・チェルノブイリに思いをよせて

チェルノブイリ救援・中部 事務局から 1991.10.3 No.9

ネチポレンコ編集長と ライサさん講演会成功、無事帰国



ヴァレリー・ネチポレンコ氏 アルチェフ・ライサ・ヴラジミーロブナさん
(歓迎会にて 7.27)

来日講演会成功のお礼

これまで応援してくださっている皆様にお二人の来日についての報告がすっかり遅れてしまい大変失礼しました。

前回もご紹介しました通り、チェルノブイリ救援・中部が現地の救援窓口としているジトミールスキーヴィスニーク新聞社のネチポレンコ編集長と小児科医師のライサさんが今年の夏日本に無事予定通り到着し、ハードスケジュールをこなして帰国されました。来日数週間前まで来日成功は五分五分と思われ、各地のスタッフをやきもきさせました。しかし来日中は大きなトラブルもなくその人柄や勇気には私達の期待を大きく上回るものがありました。ここにこれまでチェルノブイリ救援・中部を応援してくださった皆様、講演会開催の際、実施に直接協力してくださった皆様に心から感謝申し上げます。またこの講演会によってこの問題の大きさ、困難さをあらためて認識させられるとともにこれから絶えまなく救援を続ける必要性を強く感じさせました。どうぞ、これからもご支援ください。

さて、この来日計画は、代表の坂東弘美さんの著書、「とどけウクライナへ～私たちのチェルノブイリ救援日誌」（八月書館）に書かれていることのいわば「続き」の部分とも言えるものですが、このプロジェクト（実際私達は、これをネッチャンプロジェクトと呼んでました）を進めた時のスタッフ一人一人の熱気、来日中のはりつめた雰囲気は、今無事終わり、言い表すことのできない大きな満足感と自信とを私達に残してくれました。その一つ一つは、紙面の都合で全てをお伝えすることはできませんが、下記に概略と帰国時に送った救援物資および収支などについてご報告させていただきます。

講演会タイトル：「現地ジャーナリストが語る

5年目のチェルノブイリ」

来日講演者：

ヴァレリー・ネチポレンコ氏：

ジトミールスキーヴィスニーク新聞社編集長、政治学者、ソ連ウクライナ共和国で最も早く市民レベルでの救援活動を始めた。36才。

アルチェフ・ライサ・ヴラジミールオプナ

小児科女性医師、ウクライナ共和国ジトミール州立小児病院勤務。44才。

主催：チェルノブイリ救援・中部

各地後援：中日新聞、大垣市教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会、
広島テレビ（他各地で多数の後援を受けました。）

来日中の旅程：

- 7/28（日）名古屋市 名古屋市女性会館
- 〃 29（月）豊橋市 豊橋勤労福祉会館
- 〃 31（水）伊那 上伊那郡南箕輪村大芝高原
- 〃 31（水）長野市 勤労者福祉センター
- 8/ 1（木）岐阜市 コンセプトビル
- 〃 2（金）大垣市 大垣市文化会館
- 〃 3（土）金沢市 石川県教育会館
- 〃 4（日）京都 交流会 5（月）～8（木） 広島平和集会参加 病院など訪問 *協力：ジュノーの会
- 〃 9（金）宮崎市 講演会 主催：チェルノブイリ支援運動・宮崎
- 〃 10（土）～12（月）名古屋 帰国。

講演録抜粋

ネチポレンコ氏：

ウクライナで最も放射能の打撃を受けたのは、ジトーミル州で全面積の42%。8つの行政府、4つの都市、8つの大きな町、799の村がそこにはあります。45万3千の住民の内10万人が子供たちで、そこにはいまだに6万8千人の子供たちがそこに住んでいます。—この州から166の村が移住しなければならないと私達は考えていますが、まだ12の村のみが移住を終えただけです。

最近甲状腺腫瘍が急増しており特にジトーミル州は他の州の4倍にも上ります。また貧血症が子供達の間で事故以前の25倍にもなりました。

また不妊が1.5倍に増加し、異常出産は生まれてくる子供の半分にもなりません。

植物など生体系の異常は、ヴィスニーク誌に寄せられる読者からの投書からもまた私自身が目撃した経験からも明かです。(講演会で写真などが公開された。)

一度原発事故が起きれば地球規模のカタストロフィー(破滅)になります。全ての原発、核施設は全て閉鎖しなければなりません。

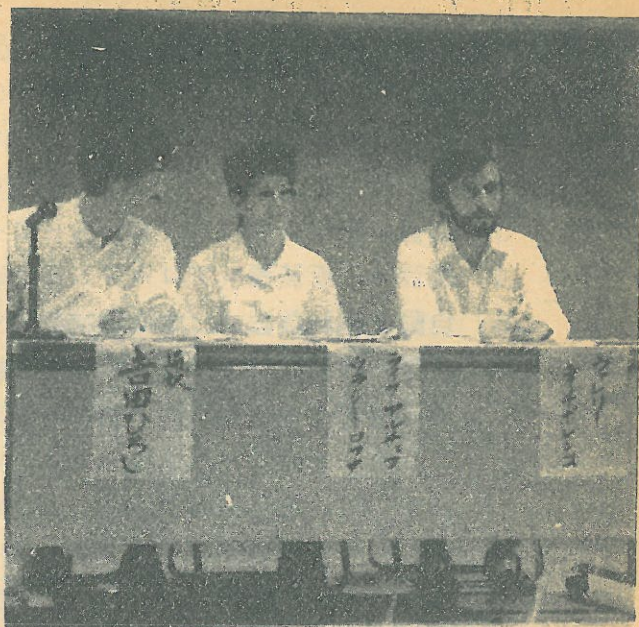
私は、ここにチェルノブイリ救援・中部のくださった多額のお金でチェルノールカ村に放射能難民のため新しい移住の家を買えましたことをご報告します。

(事務局：この家は、日本から送った大量のカレンダーが現地で販売され、その売り上げによって購入されたものです。さらにこの他に家半軒分がこの売上で買うことが出来たそうです。)

ライサさん：子供の病気について、全ての放射性核種が消化器から検出されています。消化器系の病気が多いのは胆嚢炎で事故前の年で0.8人/1000人であったのが1988年には11.4人になりました。

汚染されていない食物を十分に与えられていない子供たちの中には、肝臓の病気が4倍になっている他、特に糖尿病が急速に増えています。

子供の死亡率のうちで先天性の発育異常は、死亡率の第2位を占めていて、26.9%となっています。



今回送った救援物資一覧

1991.8.18

1. 超音波診断装置 (アロカSSD-630)	1台
2. 超音波診断装置 (アロカSSD-220)	1台
3. 超音波診断装置 (日立EUB-24F)	1台
4. 超音波診断装置 (アロカSSD-500)	1台
5. 自動血球計数器 (日本光電MEK-5108)	3台
6. 携帯用放射線検出器 (タウ技研 NaI検出器)	2台
7. 個人用ポケット線量計 (東洋計器RAD-010GD)	10個
8. ファクス (リコー、RIFAX-110)	1台
注射器 (注射器2900本、注射針18900本、	
9. 注射器セット 135組)	
10. デジタル体温計	20本
11. 医薬品 (抗生物質、止血剤、ビタミン剤など)	18Kg
12. スキムミルク	120Kg
13. ビスケット	50Kg
14. 文房具 (ノート、絵はがき、アルバムなど)	72Kg
15. 被災者移住基金 (各地の講演料、カンパなど)	92.5万円
16. 被災者救援資金 (ウクライナ産亜麻テーブルクロス売上)	39万円

注. この他にも、重量オーバーのため載せられなかった浄水機や顕微鏡を発送しました。尚、送った医療機器には、寄贈していただいた中古品と新品のものが含まれていますので全て金額になおすのは単純にはできませんが、ちなみに超音波診断装置は、定価で購入した場合、一台7~800万円位、血液分析器が1台240万円くらいします。

尚、招待経費は、下記の通りでした。(全体収支は最終頁に掲載)

航空チケット代	158,000円	ポスター・チラシ代	197,760円
交通費	415,410円	通訳料	613,040円
ホテル代	393,937円	雑費	44,067円
食費	198,540円		
通信費	7,096円	経費合計	2,027,850円

またネチポレンコさんとライサさんが帰国した二日後（8月14日）、伊那から原富男さんと原さんの娘さん（中学一年）、小牧崇さんの3人が、救援物資一トンとともにジトーミルを訪問し、8月21日に帰国されました。尚、娘さんは汚染地帯を避けた場所を訪問しています。以下に、原さんの報告（一部）をご紹介します。

ウクライナ交流の旅

原 富男（伊那谷いのちがだいじ連絡会会員）

ウクライナの自然、それはどこまでも続く農地と深い森、ゆったりと流れる河と点在する湖、神を信じない人でも神の存在を実感できる恵みの地、それがウクライナだ。しかし、この風景の中にホットスポットはあった。ピクニック気分で食事をした林の中、乳牛を飼っている牧場の牧草地、老人がゆったりと語り合う病院の庭、いづれも名古屋の20倍以上の放射能があった。



帰国した原富雄さんたち

ネチポレンコさんは、「私の心は治療が先だと言い、私の頭は移住が先だ言う。」と述べた。移住しようにも汚染された家と土地の買い上げ額では、汚染されていない土地では一部屋のところしか買えない。だから放射能と共存しているというのが実態だそうで、放射能が生活の中に静かに取り入れられてしまっているのが人々の姿からみてとれた。

病院で子供たちに会った。その中で重病の子供に会った。チェルノブイリ原発の近くに住んでいたようで説明を受けるまでもなく腹部が極端にふくらんでいる。話によれば後3ヶ月の命だということだ。見舞いを終えて病室を出た時、僕はお舞いをした事を深く反省した。この子は外国人である僕たちが見舞ったことによって病気の深刻さと自分の運命を悟ってしまったに違いないからだ。

ウクライナの人々の生活は、日本に例えれば30年前の生活だ。買い物をしようにも物不足のため、配給券がなければ何も買えない。街には日本でなら廃車になるような車が堂々と走っている。

この貧しさの中で、ウクライナの人々は僕たちに限りなく優しく親切にしてくれた。普段愛とか友情だとか真心とかいう言葉をウソっぽいと毛嫌いしている僕が、そういう言葉を自然受け入れることができる程、親切にしてくれたり気遣いがやさしくて気持ちが浄化されていくような気がした。 以上

（尚、現地報告（全文）は、まもなく完成するそうです。）

チェルノブイリからの手紙・絵画展

各地での開催予定

10月	4～7日	愛知県岡崎市	ガスびあれんじやく
〃	12～14日	鹿児島県福山市	市民会館
〃	19～20日	静岡市	県総合福祉会館
〃	23～24日	静岡県榛原町	クリエイト榛原
〃	26～27日	〃 島田市	プラザおおるり
〃	30～31日	〃 清水市	戸田書店リブレ
11月	5日	千葉県八街町	生活クラブ生協
〃	6～7日	〃 習志野市	大久保公民館
〃	9～10日	〃 船橋市	三田公民館
〃	13日～12月9日頃	四国巡回	詳細未定
12月	13日～17日	愛知県豊川市	子ども造形センター
〃	26日～27日	神奈川県藤沢市	藤沢名店ビル
来年1月	18～19日	兵庫県明石市	場所未定
2月	14～19日	愛知県春日井市	春日井西武

尚、今年3月に開催して以来これまでに9月末現在日本各地28カ所で開催されたこととなります。この絵画展開催を希望される方は最終ページ掲載の岡部さんまでお問い合わせください。

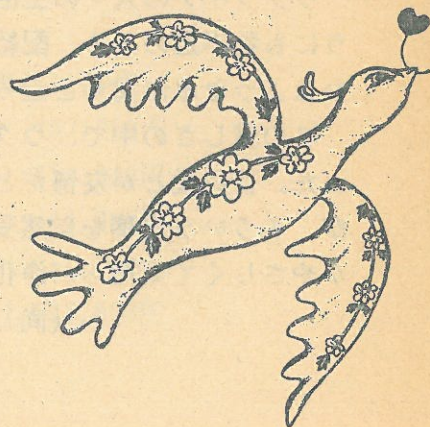
また子供たちの絵画や手紙の中から絵はがき集を（5枚1セット）作成しました。これも絵画展などで販売し救済物資の購入費用に当てています。

***タイトル：「とどけウクライナへ」

坂東弘美さんの本が出版されました***

八月書館からチェルノブイリ救済・中部の代表、坂東さんの救済日誌が本として発刊されました。これは、救済・中部が昨年4月に生まれてから、救済のためウクライナを訪問した時の現地の様子までをちょっと変わった紀行風にまとめた本です。

尚、この本の印税は、全て救済金として使われます。頒価1600円（消費税別）です。どうぞ書店でご注文ください。



～海外記事とじこみ帳から～ (要約のみ)

両大統領の語る「チェルノブイリ」～TV生出演で～

9月6日、アメリカの9都市へ放映されたテレビ番組でゴルバチョフ大統領とエリツインロシア共和国大統領が初めてそろって出演した。

アメリカの聴取者から出されたチェルノブイリについての質問に対し、ゴルバチョフ大統領は、「チェルノブイリ原発事故とその影響は、非常に複雑化している。我々の予想していなかったことが沢山現れている。」また「チェルノブイリの子供たちのことが第一の問題だ、つまり子供達を避難させること、そして食料を供給することだ。」と述べた。

またエリツインロシア共和国大統領は、「現在この問題を監視するためできることは全てなされている」と述べた。そしてこれまで各国からの救援に感謝するとともに全ての救援物資は子供たちに供給されていると強調した。

一方ゴルバチョフ大統領は苦渋の様子で「子供たちの健康についての経過観察では全てが順調というわけではない。とにかく見守りそしてこれからの我々の次の世代のために成し得る全てをするつもりだ。」、またこのような原発事故が再度起こった時に再び何も知らされない懸念について、(チェルノブイリ原発事故でも)全てが明かにされなかったことを認め、許し難いことだと強調した。

エリツイン大統領も「放射能が放出されたのはチェルノブイリだけではない、1957年にもチェリアピンスクでも起きており、これを隠べいしたのも勿論犯罪だ。これらの影響を最小限にしようとしているが30年以上経ても全て解決するのは不可能だ。」と述べた。(9/6、91年タス通信)

これからの取り組みについて

救援・中部では、さらに救援を続けるため次のようなキャンペーンを実施することにしました。これはこれからさらに医療機器の購入をしたり、汚染されていない食料を現地へ送るため行うものです。

1. ミルクキャンペーン (担当:名古屋グループ)
粉ミルクをあなたのメッセージをつけて現地へ送ります。1口2000円
2. 病院の子供たちに絵本を (担当:大垣グループ)
病気で苦しむ現地の子供もたちのため、もう読まれていないお子さんの絵本を救援・中部までお送り下さい。
3. クリスマスカード今年も送ります。(担当:救援・岐阜)

会計報告 ('91.4.21~8.31)

収入の部

前期繰り越し	4,626,712
カンパ収入	
個人92件	619,855
団体28件	851,676
イベント収入	
広河隆一講演会	38,500
絵画展、写真展など	845,764
ネチポレンコ・	
ライサさん講演会	1,001,986
絵画パネル貸出料	102,500
パンフ絵はがき等売上	1,163,680
雑収入	24,704

支出の部

印刷費・コピー費	665,888
FAX・国際電話	331,141
切手代	258,572
パネル、絵はがき製作	244,390
文具、会場費等事務経費	165,516
救援米加工費	83,380
放射線検知機購入	773,815
来日講演会実施経費(別掲)	2,027,850
移住基金	925,000
救援物資輸送、通関料	229,465
テーブルクロス代	390,000
小計	6,095,017
次期繰り越し	3,180,360

合計 9,275,377

合計 9,275,377

＊＊お知らせ＊＊

- ・ネチポレンコさんたちの来日講演録全文をまとめました。解説文つき。一部350円。
- ・不定期発行ですが中身の濃い(?!) 救援中部の通信誌「ポレーシェ」の購読を募集中です。年間購読料1000円。
- ・被災地の家族や子供たちから届いた沢山の手紙や絵が「絵はがき集」になりました。1セット5枚で300円です。救援・中部まで直接お申込みください。
- ・また現地からの手紙を抜粋し「チェルノブイリからの107通の手紙・絵画展パンフ」としてまとめました。文通の要項付き。1部200円です。

チェルノブイリ救援・中部(郵便振替口座 名古屋8-108610)

代表: 坂東弘美

問合せ先: 岡部(昼のみ) 豊橋市東新町334 TEL.0532-52-2380

長谷川(夜のみ) 名古屋市名東区赤松台502 TEL.052-773-0271

山盛 名古屋市緑区作の山町230メゾン作の山207号 TEL.052-892-9706

◎チェルノブイリ救援・中部では、戸別訪問による募金活動は一切しておりません。不審なカンパ要請には充分ご注意ください。